

公益社団法人 医学振興銀杏会

自2022年(令和4年)4月1日 至2023年(令和5年)3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業(定款第4条第2項該当事業)

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生15名に各々20万円を支給した。

2001年から2022年までの採択数 学部生236名、大学院生170名

(※大学院生の受給要件に医師免許なし → すべて大阪大学医学部以外の学部出身者)

②岸本基金奨学助成金 成績優秀で、将来に高い志を有する学部学生に対し、1年次～6年次の12名に各々月額5～10万円を支給した

2011年から2022年までの採択数 学部生160名

(2) 地域医療に関する研究助成金(定款第4条第1項該当事業)

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者(個人またはグループ)に対する研究助成金として、3名の研究者に1件50万円を支給した。

倉橋知英	慢性肝疾患患者におけるサルコペニア発生に寄与する因子および亜鉛投与のサルコペニア発生への影響に関する検討
宮崎友希	脳波データに深層学習アルゴリズムを適用した認知症患者の識別技術の検証と識別技術のパッチ式脳波計への応用
清水豪士	脳動脈瘤に対する低パルスコイル下コイル塞栓術による被曝低減の試み

2000年から2022年までの採択数 90名(うち、大阪大学以外の大学出身採択者21名)

(3) 国際学術交流助成金(定款第4条第3項該当事業)

外国で行われる国際学会等において成果発表をする若手研究者の渡航費用支援として、10名の研究者に対し、地域により12万円～22万円の助成金を総計177万円支給した。

2009年から2022年までの採択数 155名(うち、大阪大学以外の大学出身採択者79名。2020～2021年度は対象者なし)

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) シンポジウムの開催(定款第4条第4項該当事業)

医療関係者向けに「大阪大学のCOVID-19への取り組み」をテーマに開催。

2022年10月7日(金) 大阪大学銀杏会館3階: 阪急・三和ホールにて

講演者	大竹 文雄 先生(大阪大学特任教授、CiDER副拠点長)
	竹田 潔 先生(大阪大学教授、CiDER感染症・生体防御研究部門)
	忽那 賢志 先生(大阪大学教授、CiDER人材育成部門)
	中込 咲綾 先生(大阪大学特任准教授、微生物病研究所)
	太田 悦子 師長(感染制御部副部長/看護師長、感染管理認定看護師)
コーディネーター	樂木宏実(大阪大学教授、老年・総合内科学)、忽那賢志(大阪大学教授、CiDER人材育成部門)

(2) 銀杏メディカルネットの運営(定款第4条第6項該当事業)

地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、銀杏メディカルネット通信の送信およびホームページにて、医療関係者向けに病院・研究施設の情報を提供した。

3 医学医療に関する情報の普及・啓発事業

(1) 学術誌の発行事業(定款第4条第5項該当事業)

会員・地域病院などに配布(2022年12月発行)

総会特別講演	腸管の恒常性維持機構—腸内細菌と宿主の相互作用機構—	竹田 潔(大阪大学教授、免疫制御学)
シンポジウム講演	大阪大学のCOVID-19への取り組み	本報告書、2(1)に記載
生涯教育講座 「皮膚科領域の最新治療」	①皮膚科領域治療の最近の動向	藤本 学(大阪大学教授、皮膚科学)
	②アトピー性皮膚炎の皮膚マイクロバイオームと病原細菌クオラムセンシング	松岡悠美(大阪大学准教授、免疫学フロンティア研究センター 皮膚免疫学)
	③乾癬治療の進歩	渡辺 玲(大阪大学寄附講座准教授、アレルギー免疫疾患統合医療学)
	④皮膚悪性腫瘍	種村 篤(大阪大学准教授、皮膚科学)
	⑤表皮水疱症治療に対する再生誘導医薬開発	玉井克人(大阪大学寄附講座教授、再生誘導医学)
	⑥母斑症	金田眞理(大阪大学寄附講座教授、神経皮膚症候群の治療法の開発と病態解析学)

公益社団法人 医学振興銀杏会

自2022年(令和4年)4月1日 至2023年(令和5年)3月31日

特集 「生きがいを育む 社会の創造:健康 ×スポーツの グローバル アプローチ」	①住む街・職場・社会・グローバルヘルスのサイエンスと人材育成と街づくり: Lab in community	中田 研(大阪大学教授、スポーツ医学)
	②グローバルヘルスに向けたアジア連携活動	中谷大作(大阪大学准教授、国際未来医療学)
	③身体活動と健康: Exercise in Medicine	金本隆司(大阪大学講師、スポーツ医学)
	④大阪大学によるトップアスリートの科学的支援-東京オリンピック日本代表選手の身体活動評価-	小笠原 一生(大阪大学助教、運動制御学)
	⑤大学生のスマートヘルステラシー:健康・スポーツ教育科目におけるクラス横断型教育コンテンツ	近田彰治(大阪大学助教、運動制御学)
地域医療に関する研究助成成果報告ほか		

(2) 医学伝習に関する歴史と伝統を学ぶ研修事業(定款第4条第4項該当事業)

医学部新入学生の修学意識向上を目的に、大阪における医学伝習に関する史跡等の紹介と医学史講義を行った。
 2022年4月9日(土)適塾(大阪府中央区北浜3-3-8)およびエル大阪会議室(大阪府中央区北浜東3-14)にて実施

(3) 学術行事への助成事業(定款第4条第4・7項該当事業)

中之島祭で開催される医学シンポジウム・展示の支援に30万円を支給した。

II. その他事業(相互扶助等事業)

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

1 広報誌発行事業(定款第4条第5項該当事業)

年3回(5月・9月・1月)発行し、会員・各大学などに配布した。

2 会員交流助成事業(定款第4条第8項該当事業)

医学部卒業生の支援として10万円を支給した。

管理部門

I. 法人管理

1 総会の開催 定時社員総会 2022年5月28日(土)書面決議にて

2 理事会の開催

定例理事会 2022年4月22日(金)、2023年3月10日(金)

みなし理事会 2022年5月20日、6月24日、7月22日、9月9日、11月25日、12月23日

2023年1月21日、2月24日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開(ホームページにて)

附属明細書

事業における重要な事項は2022年度事業報告に掲載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特になし

公益社団法人 医学振興銀杏会 2021年度事業報告
自2021年（令和3年）4月1日 至2022年（令和4年）3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業（定款第4条第2項該当事業）

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生31名に各々15万～20万円を支給した。

2001年から2021年までの採択数 学部生226名、大学院生165名

（※大学院生の受給要件に医師免許なし → すべて大阪大学医学部以外の学部出身者）

②岸本基金奨学助成金 成績優秀で、将来に高い志を有する学部学生に対し、1年次～6年次の12名に各々月額5～10万円を支給した

2011年から2021年までの採択数 学部生146名

(2) 地域医療に関する研究助成金（定款第4条第1項該当事業）

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者（個人またはグループ）に対する研究助成金として、3名の研究者に1件50万円を支給した。

石原 隆行	急性冠症候群患者に対する脂質管理強化院内プロトコール治療後の臨床成績に与える効果の検討
井上 彬	大腸癌におけるリキッドバイオプシーを用いた個別化医療への臨床応用
杉本 彩	がん悪液質を有する切除不能進行肺癌患者におけるアナモレリン塩酸塩の体組成への影響と効果予測のためのバイオマーカー探索

2000年から2021年までの採択数 87名（うち、大阪大学以外の大学出身採択者21名）

(3) 国際学術交流助成金（定款第4条第3項該当事業）

COVID-19の影響により、対象者なし。全額未執行（予算額200万円）

2009年から2021年までの採択数 145名（うち、大阪大学以外の大学出身採択者73名。2020～2021年度は対象者なし）

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) シンポジウムの開催（定款第4条第4項該当事業）

医療関係者向けに「新型コロナウイルス感染症の現状と未来」をテーマにハイブリット形式で開催。

2021年10月22日（金）大阪大学銀杏会館3階：阪急・三和ホールにて

講演者	朝野和典（大阪健康安全基盤研究所、理事長）
	忽那賢志（大阪大学教授、感染制御部）
	浅田留美子（大阪府健康医療部保険医療室、副理事）
	内山昭則（大阪大学准教授、麻酔・集中治療学）
	熊ノ郷淳（大阪大学教授、呼吸器・免疫内科学）
コーディネーター	薬木宏実（大阪大学教授、老年・総合内科学）、朝野和典（大阪健康安全基盤研究所、理事長）

(2) 銀杏メディカルネットの運営（定款第4条第6項該当事業）

地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、銀杏メディカルネット通信の送信およびホームページにて、医療関係者向けに病院・研究施設の情報を提供した。

3 医学医療に関する情報の普及・啓発事業

(1) 学術誌の発行事業（定款第4条第5項該当事業）

会員・地域病院などに配布（2021年12月発行）

生涯教育講座 「阪大病院が 取り組む AIホスピタル」	①はじめに～なぜいまAIホスピタルなのか？	西田幸二（大阪大学教授、眼科学）
	②阪大病院が目指すAIホスピタル	土岐祐一郎（大阪大学教授、消化器外科学）
	③医学へのAI応用：医療情報学の取り組み	松村泰志（国立病院機構大阪医療センター院長、大阪大学招聘教授・医療情報学）
	④AIホスピタル・リキッドバイオプシーの取り組み・期待	野々村祝夫（大阪大学教授、泌尿器科学）
	⑤AIホスピタルに向けた看護領域の取り組みと期待	佃順子（阪大病院 副看護部長）
	⑥AIホスピタル・音声入力システムによる外来診療補助の取り組み	中川雄公（阪大病院高度救命救急センター講師）、二本寛也（大阪大学吉田附講座准教授）
	⑦大阪大学におけるAIホスピタルと消化器外科領域における取り組みの現状と展望	三吉範克（大阪大学講師、消化器外科学）
	⑧阪大病院AI医療センターにおける病院全体の業務支援に関わるプロジェクト支援～自動運転車いすサービスを題材とした人間中心のAI実証研究を例に	川崎良（阪大病院AI医療センター 副センター長・特任教授）
	⑨関節リウマチの診療支援AI	熊ノ郷淳（大阪大学教授、呼吸器・免疫内科学） 宇野亨（同招へい教授）、津田康孝（同特任助教）
	⑩AIシース研究・子宮頸がん健診へのAI診断の導入可能性	木村正（大阪大学教授、産科学婦人科学） 上田豊（大阪大学講師、産科学婦人科学）
	⑪脳波を判読する人工知能の開発	貴島晴彦（大阪大学教授、脳神経外科学）
	⑫AIシース研究・心不全ホームモニタリング	宮川繁（大阪大学教授、心臓血管外科学）、迫田実香（同特任研究員）、麻野井英次（医療法人社団藤聖会富山西総合病院 院長）

公益社団法人 医学振興協会 2021年度事業報告
自2021年（令和3年）4月1日 至2022年（令和4年）3月31日

特集 「ワクチン」	①はじめに 本特集の趣旨	宮坂昌之（大阪大学招へい教授、免疫学フロンティア研究センター）
	②COVID-19に対するmRNAワクチンの開発	石井健（東大医科学研究所教授、感染・免疫部門）、小椋山康司（同准教授）、日置仰（同大学院生）
	③COVID-19に対するレコンビナントワクチン開発	形山和史（塩野義製薬株式会社 イノベーティブ医療研究所・株式会社UMNファーマ 代表取締役社長）、本間誠之（同研究所 アソシエートディレクター）
	④COVID-19に対するDNAワクチンの開発	中神啓徳（大阪大学寄附講座教授、健康発達医学）
	⑤新型コロナウイルスの人工合成法	松浦善治（大阪大学微生物病研究所 特任教授）、前田裕輔（同特任教授）、小野慎子（同招へい准教授）島居志保（同常勤特任研究員）
	⑥SARS-CoV-2に対する感染促進性抗体とCOVID-19ワクチン	荒瀬尚（大阪大学教授、免疫学フロンティア研究センター 免疫化学）
	⑦新型コロナウイルスに対する抗体調査	森康子（神戸大学教授、臨床ウイルス学）、古川皓一（同特命助教）
	⑧mRNA医薬品・感染症予防ワクチンの先にある可能性	内田智士（京都府立医科大学准教授、医系化学）
	⑨ワクチン接種と接種後の「事象」について	多屋馨子（国立感染症疫学センター 第三室 室長）
	⑩mRNAワクチンはなぜ高い有効性を示すのかその疫学的理由	宮坂昌之（大阪大学招へい教授、免疫学フロンティア研究センター）
地域医療に関する研究助成成果報告ほか		

- (2) 医学伝習に関する歴史と伝統を学ぶ研修事業（定款第4条第4項該当事業）
 医学部新入学生の修学意識向上を目的に、大阪における医学伝習に関する史跡等の紹介と医学史講義を行った。
 2021年10月2日（土） 大阪大学銀杏会館にてオンライン配信形式で実施
- (3) 学術行事への助成事業（定款第4条第4・7項該当事業）
 中之島祭で開催される医学シンポジウム・展示の支援に10万円の予算を計上していたが、COVID-19の影響で支給せず。

II. その他事業（相互扶助等事業）

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

- 1 広報誌発行事業（定款第4条第5項該当事業）
 年3回（5月・8月・1月）発行し、会員・各大学などに配布した。
- 2 会員交流助成事業（定款第4条第8項該当事業）
 医学部卒業生の支援として10万円を支給した。
- 3 会員名簿発刊事業（定款第4条第5項該当事業）
 3年に一度の発行年にあたり、予定通り11月に発行した。名簿として個人的に活用する他に、会員間での患者紹介や、特定症例やおよび知識に関する有識者照会といった医学関係者データベースとしても活用出来るよう、専門分野の情報なども掲載した。

管理部門

I. 法人管理

- 1 総会の開催 定時社員総会 2021年5月29日（土）書面決議書にて
- 2 理事会の開催
 定例理事会 2021年4月23日（金）、2021年5月29日（土）、2022年3月25日（金）
 2021年5月21日、6月25日、7月30日、8月25日、9月24日、11月26日
 みなし理事会 2022年1月22日、2月25日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開（ホームページにて）

附属明細書

事業における重要な事項は2021年度事業報告に掲載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特になし

公益社団法人 医学振興銀杏会 2020年度事業報告
自2020年（令和2年）4月1日 至2021年（令和3年）3月31日

3 医学医療に関する情報の普及・啓発事業

(1) 学術誌の発行事業（定款第4条第5項該当事業）

会員・地域病院などに配布（2020年12月発行）

特集 「COVID-19 への対応と 今後の課題」	①はじめに 本特集の趣旨	磯 博康（公衆衛生学 教授）
	②COVID-19に対処した保健所とその役割を歴史的な経緯からみる	高島毛敏雄（関西大学 社会安全学部・社会安全研究科 教授）
	③COVID-19に大阪健康安全基盤研究所が果たした役割と今後の展望	奥野良信（大阪健康安全基盤研究所 理事長）
	④わが国の新型コロナウイルス感染症に対するクラスター対策について	砂川富正（国立感染症研究所 感染症疫学センター 第2室長）
	⑤大阪府における新型コロナウイルス感染症の発生動向及び対策	吉田英樹（大阪府保健所長）
	⑥特定感染症指定医療機関における新型コロナウイルス感染症COVID-19の対応の経緯と現状	後 正也（りんくう総合医療センター 総合内科・感染症内科部長 兼 感染症センター長）
	⑦保健所の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対応の現状と課題	白井千香（枚方市保健所長（全国保健所長会副会長・健康危機管理に関する委員委員長））
	⑧COVID-19に対する医療提供体制の確保と院内感染対策	朝野和典（感染制御学 教授）
	⑨関西空港におけるCOVID-19への対応	笠松英恵（厚生労働省関西空港検疫所 所長）
	⑩レジリアンスとイノベーションの時代：COVID-19のもたらした教訓から学ぶ	中谷比呂樹（公衆衛生学 招聘教授）
地域医療に関する研究助成成果報告ほか		

(2) 医学伝習に関する歴史と伝統を学ぶ研修事業（定款第4条第4項該当事業）

医学部新入学生の修学意識向上を目的に、大阪における医学伝習に関する史跡等の紹介と医学史講義を行った
 2020年9月5日（土）大阪大学銀杏会館にて実施 参加者82名

(3) 学術行事への助成事業（定款第4条第4・7項該当事業）

中之島祭で開催される医学シンポジウム・展示の支援に10万円の予算を計上していたが、COVID-19の影響で支給せず

II. その他事業（相互扶助等事業）

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

1 広報誌発行事業（定款第4条第5項該当事業）

年3回（5月・9月・1月）発行し、会員・各大学などに配布した。

2 会員交流助成事業（定款第4条第8項該当事業）

2020年10月3日（土）大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンターにて実施された新入生歓迎イベントに助成した。
 医学部卒業生の支援として10万円を支給した。

管理部門

I. 法人管理

1 総会の開催 定時社員総会 2020年5月23日（土）書面決議書にて

2 理事会の開催

定例理事会 2020年4月24日（金）、2021年3月12日（金）

みなし理事会 2020年5月19日、6月26日、7月10日、8月5日、8月31日、9月11日、11月13日、12月11日
 2021年1月23日、2月12日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開（ホームページにて）

附属明細書

事業における重要な事項は2020年度事業報告に掲載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特になし

公益社団法人 医学振興銀杏会 2020年度事業報告
自2020年(令和2年)4月1日 至2021年(令和3年)3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業(定款第4条第2項該当事業)

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生15名に各々20万円を支給した

2001年から2020年までの採択数 学部生212名、大学院生148名

(※大学院生の受給要件に医師免許なし→すべて大阪大学医学部以外の学部出身者)

②岸本基金奨学助成金 学業に精励して成績優秀であり、将来に向けての高い志を有する学部学生に対し、

1年次～6年次の13名に各々月額5～10万円を支給した

2011年から2020年までの採択数 学部生134名

(2) 地域医療に関する研究助成金(定款第4条第1項該当事業)

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者(個人またはグループ)に対する研究助成金として、3名の研究者に1件50万円を支給した。

林 覚史	ウェアラブルデバイスを用いた周術期管理指標の探索的検討
高野浩司	神経腫瘍患者における分子分類毎の最適な手術戦略の確立
石津谷祐	社会経済的地位が尿路性器癌の予後に与える影響：大阪府癌登録を用いたレジストリ研究

2000年から2020年までの採択数 84名(うち、大阪大学以外の大学出身採択者20名)

(3) 国際学術交流助成金(定款第4条第3項該当事業)

COVID-19の影響により、対象者なし。全額未執行(予算額200万円)

2009年から2019年までの採択数 145名(うち、大阪大学以外の大学出身採択者73名)

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) シンポジウムの開催(定款第4条第4項該当事業)

一般市民向けに「AYA(思春期・若年成人/ Adolescent and Young Adult)世代がん」をテーマにした講演を収録し、

YouTubeにて2021年12月25日まで配信中。2021年3月31日現在、764回視聴(その他告知：広報誌・ポスター・ホームページ・SNS等を利用)

2020年10月30日(金)収録

講演者	松浦成昭(大阪国際がんセンター 総長)
	瀧内 剛(大阪大学医学部附属病院生殖医療センター 副センター長)
	谷島雄一郎(大阪ガス株式会社 近畿圏部 ソーシャルデザイン室、ダカラソクリエイト 発起人・世話人/カラクリLab. 代表)
コーディネーター	樂木宏実(大阪大学教授、老年・総合内科学)、宮村能子(大阪大学講師、小児科学)

(2) 銀杏メディカルネットの運営(定款第4条第6項該当事業)

インターネット上の研修等情報サイト「銀杏メディカルネット」を通して、地域医療のネットワーク機能強化

および人材交流の活性化のため、医学生・研修医等に病院・研究施設の情報を提供した。

公益社団法人 医学振興銀杏会 2019年度事業報告
自2019年（平成31年）4月1日 至2020年（令和元年）3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業（定款第4条第2項該当事業）

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生15名に各々20万円を支給した

2001年から2019年までの採択数 学部生204名、大学院生141名

（※大学院生の受給要件に医師免なし→すべて大阪大学医学部以外の学部出身者）

②岸本基金奨学助成金 学業に精励して成績優秀であり、将来に向けての高い志を有する学部学生に対し、

1年次～6年次の14名に各々月額5～10万円を支給した

2011年から2019年までの採択数 学部生121名

(2) 地域医療に関する研究助成金（定款第4条第1項該当事業）

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者（個人またはグループ）に対する研究助成金として、3名の研究者に1件50万円を支給した。

あべ しんご 阿部真悟	手関節骨折患者におけるビタミンDのあたえるインパクト-骨折重症度とビタミンDの関連について-
みよ ともあき 三代雅明	乳癌におけるSWI/SNFを介したMUC1のクロマチンリモデリング制御機能の解明
むらつ じゅん 村津 淳	高齢維持血液透析患者におけるDual photon energy X-ray absorptiometry (DEXA) を用いた適正体重およびサルコペニア肥満の評価と予後

2000年から2019年までの採択数 81名(うち、大阪大学以外の大学出身採択者20名)

(3) 国際学術交流助成金（定款第4条第3項該当事業）

外国で行われる国際学会等において成果発表をする若手研究者の渡航費用支援として、10名の研究者に対し、地域により13万円～21万円の助成金を総計155万円支給した。

2009年から2019年までの採択数 145名(うち、大阪大学以外の大学出身採択者73名)

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) 地域医療の課題とその対策シンポジウムの開催（定款第4条第4項該当事業）

「がんゲノム医療の課題と展望」をテーマに、地域医療に携わる現場の医師や医療施設関係者が意見交換・討論を行い、知識や交流を深めた。

2019年10月11日(金)開催

講演者	谷内田真一（大阪大学教授、がんゲノム情報学）
	向井 洋介（厚生労働省 健康局 がん疾病対策課）
	坂井 大介（大阪大学医学部附属病院 がんゲノム医療センター 特任講師）
	加藤 和人（大阪大学教授、医の倫理と公共政策学）
コーディネーター	樂木 宏実（大阪大学教授、老年・総合内科学）

(2) 銀杏メディカルネットの運営（定款第4条第6項該当事業）

インターネット上の研修等情報サイト「銀杏メディカルネット」を通して、地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、医学生・研修医等に病院・研究施設の情報を提供した。

3 医学医療に関する情報の普及・啓発事業

(1) 学術誌の発行事業（定款第4条第5項該当事業）

会員・地域病院などに配布（2019年12月発行）

公益社団法人 医学振興銀杏会 2019年度事業報告
自2019年（平成31年）4月1日 至2020年（令和元年）3月31日

総会特別講演	大阪大学医学部とゲノム科学の45年を振り返って	大阪大学名誉教授 松原謙一
シンポジウム講演	がんゲノム医療の課題と展望	執筆者は上記2(1)を参照
認知症も生涯教育講座 変性疾患	①はじめに	神経内科学 教授 望月秀樹
	②パーキンソン病 病態と最新治療	神経内科学 特任講師 馬場孝雄
	③パーキンソン病の手術療法 up to date	脳神経外科学 教授 貴島晴彦
	④アルツハイマー病 病態と最新治療	精神医学 教授 池田 学
	⑤アルツハイマー病以外の認知症 病態と最新治療	連合小児発達学研究所 行動神経学・神経精神医学寄附講座 寄附講座教授 森 悦明
	⑥ALSの病態と根治療法確立への展望	神経遺伝子学 教授 河原行郎
	⑦認知症の早期診断とフレイル	臨床遺伝子治療学寄附講座 准教授 武田朱公
	⑧神経変性疾患と神経病理	東京都健康長寿医療センター神経内科・バイオマーカー・高齢者ブレインバンク・神経病理 部長 村山繁雄
	⑨脊髄小脳変性 病態と最新治療	神経難病認知症探索治療学寄附講座 寄附講座教授 水山茂隆
放射線科学基盤機構 特集	①放射線科学基盤機構の概要	理学研究科 化学専攻 教授・放射線科学基盤機構 藤原 厚
	②21世紀の核医学治療	大阪大学核物理研究センター 次世代がん治療研究部門 特任教授 畑澤 頌
	③医療核連携によるα線核医学治療の開発	放射線科学基盤機構放射線科学部門、大学院理学研究科 教授 深瀬浩一
	④放射線治療：最先端放射線治療、粒子線治療、重粒子線治療	放射線治療学 教授 小川和彦、放射線治療学 助教 岡田伊織、放射線治療学 准教授 碓橋文明
	⑤ハイブリッドイメージング	病院 放射線部 講師 巽 光朗
	⑥画像診断と人工知能（AI）	放射線医学 教授 富山憲幸
	⑦放射線の生体影響 -基礎研究データから-	茨城大院理工学研究科 教授 田内 広
	⑧医療用RI、加速器施設、RI供給など	東北大学イオン・ラジオバイオセンター 放射線管理研究部 教授 渡部浩司
	⑨放射線科学基盤機構における人材育成から国際展開について	核医学 助教 渡部直史
	⑩放射線医療の高度化に対応する医学物理士のがんプロ教育・人材育成	保健学専攻 医用物理工学講座 教授 小泉雅彦
⑪放射線安全管理の最近の動向、大阪大学放射線科学基盤機構における放射線安全管理体制、及び学内放射	放射線科学基盤機構附属ラジオイオン・総合センター 教授 吉村 崇	
地域医療に関する研究助成成果報告ほか		

(2) 医学伝習に関する歴史と伝統を学ぶ研修事業（定款第4条第4項該当事業）

医学部新入学生の修学意識向上を目的に、大阪における医学伝習に関する史跡等の見学と医学史講義を行った
2019年4月6日（土）適塾（大阪市中央区北浜3丁目3番8号）および大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンターにて実施

(3) 学術行事への助成事業（定款第4条第4・7項該当事業）

中之島祭で開催された医学シンポジウム・展示の支援に10万円を支給した

II. その他事業（相互扶助等事業）

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

1 広報誌発行事業（定款第4条第5項該当事業）

年3回（5月・9月・1月）発行し、会員・各大学などに配布した。

2 会員交流助成事業（定款第4条第8項該当事業）

医学部卒業生の支援として10万円を支給した。

管理部門

I. 法人管理

1 総会の開催 定時社員総会 2019年5月25日（土）

2 理事会の開催

定例理事会 2019年4月19日（金）、2020年3月27日（金）

臨時理事会 2019年5月25日（土）総会前後

みなし理事会 2019年5月21日、6月28日、7月19日、9月27日、11月29日 2020年1月25日、2月28日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開（ホームページにて）

附属明細書

事業における重要な事項は2019年度事業報告に掲載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特になし

公益社団法人 医学振興銀杏会 2018年度事業報告
 自2018年(平成30年)4月1日 至2019年(平成31年)3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業(定款第4条第2項該当事業)

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生15名に各々20万円を支給した

2001年から2018年までの採択数 学部生196名、大学院生134名

(※大学院生の受給要件に医師免なし一他大学の医学部以外の学部出身者)

②岸本基金奨学助成金 学業に精励して成績優秀であり、将来に向けての高い志を有する学部学生に対し、

1年次～6年次の13名に各々月額5～10万円を支給した

2011年から2018年までの採択数 学部生107名

(2) 地域医療に関する研究助成金(定款第4条第1項該当事業)

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者(個人またはグループ)に対する研究助成金として、4名の研究者に1件50万円を支給した。

いづみ 英輝	精神科病院長期入院患者の地域移行のためのグループホーム適応に要する因子の検討
なかもと 直樹	南海トラフ地震発生時における大阪府保険医療体制の整備のための情報システムの構築
むらたみ としあき 村上千義	急性期脳梗塞に対する血栓回収術前の動脈硬化指数を用いた治療難易度判定法
もり だいすけ 森 大輔	Protein energy wasting患者における心血管病発症予測因子の探索(カルニチン欠乏の可能性)

2000年から2018年までの採択数 78名(うち、他大学出身採択者18名)

(3) 国際学術交流助成金(定款第4条第3項該当事業)

外国で行われる国際学会等において成果発表をする若手研究者の渡航費用支援として、18名の研究者に対し、地域により7万円～20万円の助成金を総計249万円支給した。

2009年から2018年までの採択数 135名(うち、他大学出身採択者67名)

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) 「地域医療の課題とその対策」シンポジウムの開催(定款第4条第4項該当事業)

「超高齢社会における老年医学の課題」をテーマに、地域医療に携わる現場の医師や医療施設関係者が意見交換・討論を行い、知識や交流を深めた。

2018年10月5日(金)開催

講演者	樂木 宏実(大阪大学教授、老年・総合内科学)
	原 英二(大阪大学 教授、微生物病研究所 遺伝子生物学分野)
	吉川 秀樹(大阪大学理事・副学長、整形外科学)
	池田 学(大阪大学教授、精神医学)
コーディネーター	荻原 俊男(森ノ宮医療大学 学長・大阪大学 名誉教授)

(2) 銀杏メディカルネットの運営(定款第4条第6項該当事業)

インターネット上の研修等情報サイト「銀杏メディカルネット」を通して、地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、医学生・研修医等に病院・研究施設の情報を提供した。

3 医学医療に関する情報の普及・啓発事業

(1) 学術誌の発行事業(定款第4条第5項該当事業)

会員・地域病院などに配布(2018年12月発行)

公益社団法人 医学振興協会 2018年度事業報告
自2018年(平成30年)4月1日 至2019年(平成31年)3月31日

総会特別講演	オートファジーの分子機構と病態生理	大阪大学医学系研究科 遺伝学 教授 吉森 保	
シンポジウム講演	超高齢社会における老年医学の課題	執筆者は上記2(1)を参照	
に勤がよる新たな治る療こ疫 がん生涯教育講座 がん免疫療法、がんワクチン療法と疫	①序	呼吸器・免疫内科学 教授 熊ノ郷 淳	
	②がん免疫におけるアジュバント療法	呼吸器・免疫内科学 助教 西田 純幸	
	③悪性黒色腫に対するがん免疫療法	皮膚科学 助教 中川 幸延	
	④肺癌の免疫チェックポイント阻害薬	呼吸器・免疫内科学 助教 長友 泉	
	⑤血液腫瘍に対する免疫チェックポイント療法	血液・腫瘍内科学 准教授 柴山 浩彦	
	⑥癌ワクチン療法	保健学科 機能情報科学講座 助教 中田 潤	
		保健学科 機能診断科学講座 教授 尾路 祐介	
	⑦CAR T細胞療法	保健学科 癌幹細胞制御学寄附講座 准教授 保仙 直毅	
	がん核拠点病院 がんゲノム特集	①本邦におけるがんゲノム医療	厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 向井 洋介
		②がんゲノム情報管理センターについて	国立がん研究センター研究所 がんゲノム情報管理センター ゲノム解析室 室長 白石 友一
③がんゲノム医療キックオフ前夜に病理医が思うこと		先端ゲノム医療学講座(タカラバイオ共同研究講座)特任教授 前田 大地	
④がんゲノム医療と品質保証シーケンス		先端ゲノム医療学講座(タカラバイオ共同研究講座)特任講師 辻本 晋政	
⑤次世代のクリニカルシーケンス:リキッドバイオプシー		ゲノム生物学講座 がんゲノム情報学教室 助教 高井 英里奈	
⑥がんゲノム医療にもとづく薬物療法		先進薬物療法開発学 寄附講座教授 佐藤 太郎	
⑦がんゲノム医療中核拠点病院としての大阪大学医学部附属病院		ゲノム生物学講座 がんゲノム情報学教室 教授 谷内田 真一	
地域医療に関する研究助成成果報告ほか			

(2) 医学伝習に関する歴史と伝統を学ぶ研修事業(定款第4条第4項該当事業)

医学部新入学生の修学意識向上を目的に、大阪における医学伝習に関する史跡等の見学と医学史講義を行った
2018年4月7日(上) 適塾(大阪市中央区北浜3丁目3番8号) および大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンターにて実施

(3) 学術行事への助成事業(定款第4条第4・7項該当事業)

中之島祭で開催された医学シンポジウム・展示の支援に10万円を支給した

II. その他事業(相互扶助等事業)

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

1 広報誌発行事業(定款第4条第5項該当事業)

年3回(5月・8月・1月)発行し、会員・各大学などに配布した。

2 会員交流助成事業(定款第4条第8項該当事業)

医学部卒業生の支援として10万円を支給した。

3 会員名簿発刊事業(定款第4条第5項該当事業)

3年に一度の発行年にあたり、予定通り11月に発行した。名簿として個人的に活用する他に、会員間での患者紹介や、特定症例および知識に関する有識者照会といった医学関係者データベースとしても活用出来るよう、専門分野の情報なども掲載した。

管理部門

I. 法人管理

1 総会の開催 定時社員総会 2018年5月26日(土)

2 理事会の開催

定例理事会 2018年4月20日(金)、2019年3月15日(金)

臨時理事会 2018年5月26日(土) 総会前

みなし理事会 2018年5月18日、6月15日、7月13日、9月21日、11月30日、12月21日

2019年1月19日、2月15日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開(ホームページにて)

附属明細書

事業における重要な事項は平成30年度事業報告に掲載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特になし

公益社団法人 医学振興銀杏会 2017年度事業報告
自2017年（平成29年）4月1日 至2018年（平成30年）3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業（定款第4条第2項該当事業）

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

- ①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生15名に各々20万円を支給した
- ②岸本基金奨学助成金 学業に精励して成績優秀であり、将来に向けての高い志を有する学部学生に、1年次～6年次の13名に各々月額5～10万円を支給した

(2) 地域医療に関する研究助成金（定款第4条第1項該当事業）

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者（個人またはグループ）に対する研究助成金として、3名の研究者に1件50万円を支給した。

柏木 理佐	住友病院人間ドックの受診者、全27,052例のデータを用いて、腹囲変化やアディポネクチン濃度変化による糖尿病発症率を研究する
原田祥太郎	VZV 関連 顔面神経麻痺症例の早期診断の開発
宗方 幸二	下部直腸癌における側方リンパ節転移の術前診断システムの構築

(3) 国際学術交流助成金（定款第4条第3項該当事業）

外国で行われる国際学会等において成果発表をする若手研究者の渡航費用支援として、10名の研究者に対し、地域により15万円～22万円の助成金を総計166万円支給した。

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) 「地域医療の課題とその対策」シンポジウムの開催（定款第4条第4項該当事業）

「ICTによる多施設共同臨床研究の新体制：OCR-net」をテーマに、地域医療に携わる現場の医師や医療施設関係者が意見交換・討論を行い、知識や交流を深めた。

2017年10月27日（金）開催

講演者	松村泰志（大阪大学 教授、医療情報学）
コメンテーター	福並正剛 先生（大阪急性期・総合医療センター 院長）
	中山貴寛先生（大阪国際 がんセンター 乳腺・内分泌外科 主任部長）
	竹原徹郎 先生（大阪大学教授、消化器内科学）
コーディネーター	荻原 俊男（森ノ宮医療大学 学長・大阪大学 名誉教授）

(2) 銀杏メディカルネットの運営（定款第4条第6項該当事業）

インターネット上の研修等情報サイト「銀杏メディカルネット」を通して、地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、医学生・研修医等に病院・研究施設の情報を提供した。

3 医学医療に関する情報の普及・啓発事業

(1) 学術誌の発行事業（定款第4条第5項該当事業）

会員・地域病院などに配布（2017年12月発行）

公益社団法人 医学振興協会 2017年度事業報告
自2017年（平成29年）4月1日 至2018年（平成30年）3月31日

総会特別講演	再生医療の現状と将来	大阪大学医学系研究科 心臓血管外科 教授 沼芳樹	
シンポジウム講演	ICTによる多施設共同臨床研究の新体制：OCR-net	執筆者は上記①を参照	
生涯教育講座 発達障害 子供・大人の	①発達障がいと睡眠障害	(毛利育子) 連合小児発達学研究所 准教授 (谷池望子) 連合小児発達学研究所 教授	
	②発達障害臨床研究のcutting-edge	連合小児発達学研究所/小児科学 助教 橋 雅弥	
	③基礎研究の立場から発達障がいをみる	神経機能形態学 教授 佐藤 真	
	④大人の発達障害～その多様なあり方～	(間宮由真) 大阪府精神医療センター 児童・思春期科 医長 (池田 学) 精神医学 教授	
	⑤脳科学の視点から愛着障害を診る	福井大学子どものこころの発達研究センター 発達支援研究部門 教授 友田明美	
	⑥自閉症乳幼児の神経特性についての研究	金沢大学子どものこころの発達研究センター教授 菊知 充	
	⑦スポーツ医学：大阪大学内外との協働	健康スポーツ科学講座 スポーツ医学教室 教授 中田 研	
	⑧スポーツ医学におけるバイオメカニクス研究-前十字靭帯損傷のメカニズムを中心に-	健康スポーツ科学講座 運動制御学教室 助教 小笠原一生	
	⑨スポーツ医学とパフォーマンス解析	健康スポーツ科学講座 スポーツ医学教室 助教 馬込卓弥	
	⑩スポーツ医学的視点からみた野球事情	健康スポーツ科学講座 運動制御学教室 准教授 松尾知之	
スポーツ特集 医科学	⑪スポーツにおける“視覚のダイナミクス”（スポーツ医学における視機能研究の基礎から応用まで）	健康スポーツ科学講座 認知行動学教室 准教授 七五三木 聡	
	⑫情報科学とスポーツ医学研究	大学院情報科学研究科 情報ネットワーク学専攻 教授 東野輝夫	
	⑬ビッグデータスポーツ医学のための情報インフラ構築	(下塚良司) 大阪大学サイバーメディアセンター・データビリティフロンティア研究機構 (義久智樹) 大阪大学サイバーメディアセンター・データビリティフロンティア研究機構 (春本良) 大阪大学データビリティフロンティア機構 (石方正) 大阪大学データビリティフロンティア機構 (寺西裕一) 情報通信研究機構・大阪大学サイバーメディアセンター	
	⑭日常診療とスポーツ医学研究	整形外科河村医院 院長 河村慎人	
	⑮スポーツ整形外科医からみたスポーツ栄養の課題	大阪府立大学総合リハビリテーション学研究所 栄養療法学専攻 教授 船橋秀二	
	⑯免疫とスポーツ医学の関連について	呼吸器・免疫内科学 教授 熊ノ郷 淳	
	⑰神経学とスポーツに起因する課題、将来：イップスについて	神経内科学 教授 望月秀樹	
	⑱「スポーツ疫学」事始め	環境医学 准教授 喜多村 祐理	
	地域医療に関する研究助成成果報告ほか		

- (2) 医学伝習に関する歴史と伝統を学ぶ研修事業（定款第4条第4項該当事業）
医学部新入学生の修学意識向上を目的に、大阪における医学伝習に関する史跡等の見学と医学史講義を行った。
2017年4月8日（土）通塾（大阪市中央区北浜3丁目3番8号）および大阪大学吹田キャンパスコンベンションセンターにて実施
- (3) 学術行事への助成事業（定款第4条第4・7項該当事業）
中之島祭で開催された医学シンポジウム・展示の支援に10万円を支給した。

II. その他事業（相互扶助等事業）

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

- 1 広報誌発行事業（定款第4条第5項該当事業）
年3回（5月・9月・1月）発行し、会員・各大学などに配布した。
- 2 会員交流助成事業（定款第4条第8項該当事業）
医学部卒業生の支援として10万円を支給した。

管理部門

I. 法人管理

- 1 総会の開催 定時社員総会 2017年5月27日（土）
- 2 理事会の開催
定例理事会 2017年4月21日（金）、2018年3月23日（金）
臨時理事会 2017年5月27日（土）総会前後2回
みなし理事会 2017年5月19日、6月23日、7月21日、9月15日、11月17日、12月15日
2018年1月20日、2月16日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開（ホームページにて）

附属明細書

事業における重要な事項は平成29年度事業報告に掲載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特になし。

公益社団法人 医学振興銀杏会 2016年度事業報告
 自2016年(平成28年)4月1日 至2017年(平成29年)3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業(定款第4条第2項該当事業)

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

- ①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生15名に各々20万円を支給した
- ②岸本基金奨学助成金 学業に精励して成績優秀であり、将来に向けての高い志を有する学部学生に、2年次～6年次の12名に各々月額10万円を支給した

(2) 地域医療に関する研究助成金(定款第4条第1項該当事業)

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者(個人またはグループ)に対する研究助成金として、3名の研究者に1件50万円を支給した。

大矢 良平	めまい患者における救急外来での眼振所見の記録
京極 都	急性呼吸不全患者に対する特殊なデバイスを必要としない簡便な経肺圧測定方法の開発
福田 弘毅	慢性心不全患者における再入院を予測する数式の作成および有用性を検討する

(3) 国際学術交流助成金(定款第4条第3項該当事業)

外国で行われる国際学会等において成果発表をする若手研究者の渡航費用支援として、19名の研究者に対し、地域により5万円～14万円の助成金を総計200万円支給した。

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) 「地域医療の課題とその対策」シンポジウムの開催(定款第4条第4項該当事業)

「新専門医制度—専門医の仕組み改革の目指すもの—」をテーマに、地域医療に携わる現場の医師や医療施設関係者が意見交換・討論を行い、知識や交流を深めた。

2016年10月14日(金)開催

講演者	千田 彰一(香川大学 名誉教授・徳島文理大学 副学長)
コメンテーター	和佐 勝史(大阪大学教授 医学科教育センター)
	坂田 泰史(大阪大学教授 循環器内科学)
	樂木 宏実(大阪大学教授 老年・総合内科学)
コーディネーター	荻原 俊男(森ノ宮医療大学 学長・大阪大学 名誉教授)

(2) 銀杏メディカルネットの運営(定款第4条第6項該当事業)

インターネット上の研修等情報サイト「銀杏メディカルネット」を通して、地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、医学生・研修医等に病院・研究施設の情報を提供した。

3 医学医療に関する情報の普及・啓発事業

(1) 学術誌の発行事業(定款第4条第5項該当事業)

会員・地域病院などに配布(2016年12月発行)

公益社団法人 医学振興協会 2016年度事業報告
自2016年(平成28年)4月1日 至2017年(平成29年)3月31日

総会特別講演	核と細胞質の対話の仕組み	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長 米田悦啓
シンポジウム講演	新専門医制度—専門医の仕組み改革の目指すもの—	執筆者は上記2(1)を参照
ゲノム編集講座 生涯教育講座 改革!	①ゲノム編集概論	共同研附属ゲノム編集センター 附属動物実験施設 准教授 真下知士
	②細菌に存在する繰り返し配列の発見からゲノム編集技術へ	九州大学大学院 農学研究院 生命機能科学部門 蛋白質化学分野 教授 石野良純
	③ヒトゲノム編集の倫理的課題への取り組み	大阪大学医学系研究科 医の倫理と公共政策学 教授 加藤和人
	④ゲノム編集技術の原理と応用	広島大学大学院理学研究科 数理分子生命理学専攻 教授 山本 卓
	⑤細菌にも存在していた免疫学的記憶	大阪大学医学系研究科 環境・生体機能学 教授 竹田潤二
	⑥小型魚類におけるゲノム編集	大阪大学医学系研究科 放射線基礎医学 教授 藤堂 剛
	⑦ゲノム編集とDNA修復機構	大阪大学医学系研究科 細胞応答制御学 独立准教授 中田慎一郎
	⑧iPS細胞におけるゲノム編集	京都大学iPS細胞研究所 (CiRA) 物質-細胞統合拠点 (iCeMS) 特定拠点講師 堀田秋津
	⑨ゲノム編集がひらく未来医療	大阪大学医学系研究科 遺伝子治療学 教授 金田安史
	グローバルヘルス 特集 シムアル ヘルス ・ テイル ブス	①グローバルヘルス・イニシアティブの設立にあたって
②グローバルヘルスの趨勢; 疾病イニシアティブから持続可能性の追求へ		大阪大学医学系研究科 国際・未来医療学 特任教授 中谷比呂樹
③学部での取り組み		大阪大学医学系研究科 医学科教育センター 教授 和佐勝史
④大学院における国際化とグローバル人材育成		大阪大学医学系研究科 生体システム薬理学 教授 金井好克
⑤大学の学術交流協定と学生交流覚書の締結; 医学科国際交流センターの活動		大阪大学医学系研究科 医学科国際交流センター 特任助教 馬場幸子
⑥大阪大学医学部附属病院 国際医療センター (Center for Global Health) の次なる課題		大阪大学医学系研究科 国際・未来医療学講座(教授(兼任))中田研
⑦医療通訳の現状について		大阪大学医学系研究科 国際・未来医療学 特任准教授 南谷かおり
地域医療に関する研究助成成果報告ほか		

(2) 学術行事への助成事業 (定款第4条第4・7項該当事業)

中之島祭で開催された医学シンポジウム・展示の支援に10万円を支給した。

II. その他事業 (相互扶助等事業)

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

1 広報誌発行业 (定款第4条第5項該当事業)

年3回(5月・9月・1月)発行し、会員・各大学などに配布した。

2 会員交流助成事業 (定款第4条第8項該当事業)

医学部卒業生の支援として10万円を支給した。

管理部門

I. 法人管理

1 総会の開催 定時社員総会 2016年5月28日(土)

2 理事会の開催

定例理事会 2016年4月22日(金)、2017年3月17日(金)

臨時理事会 2016年5月28日(土) 総会前1回

みなし理事会 2016年5月20日、6月17日、7月22日、9月16日、11月25日、12月16日
2017年1月14日、2月17日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開 (ホームページにて)

附属明細書

事業における重要な事項は平成28年度事業報告に掲載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特にないので附属明細書は作成しない。

公益社団法人 医学振興銀杏会 2015年度事業報告
自2015年(平成27年)4月1日 至2016年(平成28年)3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業(定款第4条第2項該当事業)

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

- ①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生15名に各々20万円を支給した
- ②岸本基金奨学助成金 学業に精励して成績優秀であり、将来に向けての高い志を有する学部学生に、1年次4名に各々月額5万円を、2年次～6年次の10名には各々月額10万円を支給した

(2) 地域医療に関する研究助成金(定款第4条第1項該当事業)

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者(個人またはグループ)に対する研究助成金として、3名の研究者に1件50万円を支給した。

岡崎 周平	脳主幹動脈閉塞性病変を有する急性期脳梗塞・TIA患者を対象としたMRI3D Arterial Spin Labeling 灌流イメージング法を用いた脳血流評価法に関する研究
西田 陽子	都市部在住の一般住民における皮膚乾燥の要因としての痛痒と炎症マーカーの検討
波多野浩士	尿中分泌型ガングリオンドの新規前立腺癌バイオマーカーとしての意義

(3) 国際学術交流助成金(定款第4条第3項該当事業)

外国で行われる国際学会等において成果発表をする若手研究者の渡航費用支援として、16名の研究者に対し、地域により5万円～25万円の助成金を総計200万円支給した。

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) 「地域医療の課題とその対策」シンポジウムの開催(定款第4条第4項該当事業)

「阪大における先進医療と地域医療への役割」をテーマに、地域医療に携わる現場の医師や医療施設関係者が意見交換・討論を行い、知識や交流を深めた。

2015年10月2日(金)開催 テーマ「阪大における先進医療と地域医療への役割」

講演者	澤 芳樹(大阪大学 教授 心臓血管外科)
コメンテーター	西田 幸二(大阪大学 教授 眼科)
	茂松 茂人(大阪府医師会 副会長)
	吉岡 敏治(大阪府立急性期・総合医療センター 院長)
コーディネーター	荻原 俊男(森ノ宮医療大学 学長・大阪大学 名誉教授)

(2) 銀杏メディカルネットの運営(定款第4条第6項該当事業)

インターネット上の研修等情報サイト「銀杏メディカルネット」を通して、地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、医学生・研修医等に病院・研究施設の情報を提供した。

3 医学医療に関する情報の普及・啓発事業

(1) 学術誌の発行事業(定款第4条第5項該当事業)

会員・地域病院などに配布(2015年12月発行)

公益社団法人 医学振興銀杏会 2015年度事業報告
自2015年(平成27年)4月1日 至2016年(平成28年)3月31日

総会特別講演	癌の難治性と癌幹細胞	大阪大学医学系研究科 消化器外科学 教授 森 正樹
シンポジウム講演	阪大における先進医療と地域医療への役割	執筆者は上記2(1)を参照
脅威「生涯教育講座」2015「感染症の」	①変貌する新興・再興感染症	国立感染症研究所 感染症疫学センター センター長 大石 和徳
	②エボラ出血熱 西アフリカにおける過去最大の流行	国立国際医療研究センター 国際感染症センター 国際感染症対策室 室長 加藤 康幸
	③中東呼吸器症候群(MERS)コロナウイルス	国立感染症研究所 ウイルス第三部第四室 室長 松山 州徳
	④鳥インフルエンザ	防衛医科大学 感染症・呼吸器内科 教授 川名 明彦
	⑤デング熱・デング出血熱	一般財団法人 阪大微生物病研究会 顧問センター・研究開発部門 生田 和良
	⑥超多剤耐性菌(Superbug)の現状と展望	大阪大学医学系研究科 感染制御部 教授 朝野 和典
	⑦カルバペネム系薬低感受性腸内細菌科細菌	東邦大学医学部 微生物・感染症学講座 教授 石井 良和
	⑧多剤耐性アシネトバクター	大阪大学医学系研究科 感染制御部 講師 明田 幸宏
	⑨海外からの帰国患者に対する多剤耐性菌対策	三重大学医学部附属病院 医療安全・感染管理部 副部長・准教授 田辺 正樹
	⑩当院におけるCREアウトブレイクの経験	国立病院機構大阪医療センター 副院長 多和 昭雄
「オンコロジー」特集	①オンコロジーセンター棟設置の経緯と概要紹介	大阪大学医学部附属病院 オンコロジーセンター長 野口真三郎
	②化学療法部門	大阪大学医学部附属病院 化学療法部 部長 水木満佐夫
	③緩和ケア部門	大阪大学医学部附属病院 オンコロジーセンター 特任助教 前田 一石
	④オンコロジーセンター棟での薬剤業務について	大阪大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤部長 三輪 芳弘
	⑤がん相談・患者交流サロン	大阪大学医学部附属病院 オンコロジーセンター 副センター長・看護部長 田雲 色子
	⑥遺伝カウンセリング室	大阪大学医学系研究科 保健学専攻 生命成育看護科学講座 教授 酒井 規夫
	⑦AYA世代談話室	大阪大学医学部附属病院 保健医療福祉ネットワーク部 臨床心理士 兵井 中雄
地域医療に関する研究助成成果報告ほか		

(2) 学術行事への助成事業(定款第4条第4・7項該当事業)

中之島祭で開催された医学シンポジウム・展示の支援に10万円を支給した。

II. その他事業(相互扶助等事業)

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

1 広報誌発行事業(定款第4条第5項該当事業)

年3回(5月・8月・1月)発行し、会員・各大学などに配布した。

2 会員交流助成事業(定款第4条第8項該当事業)

医学部卒業生の支援として10万円を支給した。

3 会員名簿発刊事業(定款第4条第5項該当事業)

3年に一度の発行年にあたり、予定通り11月に発行した。名簿として個人的に活用する他に、会員間での患者紹介や、特定症例および知識に関する有識者照会といった医学関係者データベースとしても活用出来るよう、専門分野の情報なども掲載した。

管理部門

I. 法人管理

1 総会の開催 定時社員総会 2015年5月30日(土)

2 理事会の開催

定例理事会 2015年4月17日(金)、2016年3月18日(金)

臨時理事会 2015年5月30日(土) 総会前後2回

みなし理事会 2015年5月21日、6月19日、7月17日、9月18日、10月23日、11月27日、12月18日、12月25日、2016年1月23日、2月26日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開(ホームページにて)

附属明細書

事業における重要な事項は平成27年度事業報告に掲載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特にないので附属明細書は作成しない。



公益社団法人 医学振興協会 2014年度事業報告
 自2014年（平成26年）4月1日 至2015年（平成27年）3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業（定款第4条第2項該当事業）

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

- ① 学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生19名に各々20万円を支給した
- ② 岸本基金奨学助成金 学業に精励して成績優秀であり、将来に向けての高い志を有する学部学生に、1年次4名に各々月額5万円を、2年次～6年次の10名には各々月額10万円を支給した

(2) 地域医療に関する研究助成金（定款第4条第1項該当事業）

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者（個人またはグループ）に対する研究助成金として、3名の研究者に1件50万円を支給した。

木下 允	筋萎縮性側索硬化症患者におけるmicrotrauma関連分子の解析
数藤 孝雄	泉州地区血液内科診療科ネットワーク構築による地域完結型医療の提供
三吉 範克	次世代シーケンサーによる大腸癌組織の網羅的解析と血液中の遊離DNAによる新規バイオマーカー探索と治療効果予測

(3) 国際学術交流助成金（定款第4条第3項該当事業）

外国で行われる国際学会等において成果発表をする若手研究者の渡航費用支援として、12名の研究者に対し、地域により15万円～20万円の助成金を総計200万円支給した。

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) シンポジウム「地域医療の課題とその対策」の開催（定款第4条第4項該当事業）

「認知症診療の進歩と地域医療連携」をテーマに、地域医療に携わる現場の医師や医療施設関係者が意見交換・討論を行い、知識や交流を深めた。

2014年10月31日（金）開催 テーマ「認知症診療の進歩と地域医療連携」

講演者	鳥羽 研二（国立長寿医療研究センター 総長）
コメンテーター	谷口 典男（浅香山病院 精神科院長）
	工藤 喬（大阪大学 教授 保健センター精神科）
コーディネーター	荻原 俊男（森ノ宮医療大学 学長・大阪大学 名誉教授）

(2) 銀杏メディカルネットの運営（定款第4条第6項該当事業）

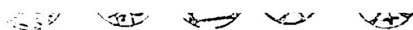
インターネット上の研修等情報サイト「銀杏メディカルネット」を通して、地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、医学生・研修医等に病院・研究施設の情報を提供した。

3 医学医療に関する情報の普及・啓発事業

(1) 学術誌の発行事業（定款第4条第5項該当事業）

会員・地域病院などに配布（2014年12月発行）

総会特別講演	制御性T細胞による免疫応答制御	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学 教授 坂口 志文
シンポジウム講演	認知症診療の進歩と地域医療連携	執筆者は上記2(1)を参照



公益社団法人 医学振興協会 2014年度事業報告
 自2014年(平成26年)4月1日 至2015年(平成27年)3月31日

生涯教育講座 「国際医療」	①はじめに	大阪大学医学系研究科 公衆衛生学 教授 磯 博康
	②グローバル・ヘルスの潮流と日本の医療・医療産業の貢献の可能性-WHOジュネーブからの視点-	WHO 事務局長補 中谷 比呂樹
	③国際医療と平和-未来共生への希望	大阪大学 副学長 星野 俊也
	④医療通訳士を創る-ことばと文化の専門職をめざして	大阪大学人間科学研究科 国際協力学 教授 中村 安秀
	⑤医療分野における産業化と国際化の意義	大阪大学医学系研究科 医療経済産業政策学 寄附講座教授 田倉 智之
	⑥未来・国際医療学講座の主宰者の立場から	大阪大学医学系研究科 心臓血管外科学 教授 澤 芳樹
	⑦未来・国際医療学講座の実施者の立場から	大阪大学医学系研究科 健康スポーツ科学 教授 中田 研
	⑧地域医療における国際化	りんくう総合医療センター 健康管理センター・国際診療科・女性外来 部長 南谷 かおり
	⑨安全・クオリティー確保の立場から	大阪A&M法律事務所 弁護士・医師 小島 崇宏
	⑩倫理、政策の立場から	大阪大学医学系研究科 医の倫理学と公共政策学 教授 加藤 和人
「最先端医療イノベーション」 センター棟 特集	①総括: CoMITの役割とプロジェクト概要	CoMIT センター長 西田幸二/CoMIT 特任准教授 嶋沼るみ子
	②共通基盤部門動物実験分野(中大動物実験施設)	CoMIT 中大動物実験施設責任者・医学部附属動物実験施設 助手 田島 優
	③共通基盤部門技術支援分野(共同利用機器室)	CoMIT 副センター長 高島 成二
	④免疫創薬ユニット-免疫腫瘍に対するIL-6阻害療法の開発-	CoMIT 抗体医薬臨床応用学寄附講座 教授 田中 敏郎
	⑤免疫創薬ユニット-免疫からの創薬シーズを求めて-	CoMIT 臨床腫瘍免疫学共同研究講座 特任教授 和田 尚
	⑥再生ユニット-再生医療の実用化に向けた再生医療製品の製造技術・規格化技術の開発-	CoMIT 幹細胞応用医学寄附講座 准教授 林 竜平
	⑦免疫再生融合ユニット-再生・細胞医療における移植細胞に対する免疫制御技術の開発と品質管理技術の応用開発-	CoMIT 免疫再生制御学共同研究講座 特任教授 豊福 利彦
	⑧医学科教育センター	医学科教育センター 教授 和佐 勝史
	⑨未来医療開発部(未来医療センター)-未来の医療技術を創り育てる-大阪大学医学部附属病院未来医療開発部の取り組み-	未来医療開発部(未来医療センター) 講師 齋藤 充弘
	地域医療に関する研究助成成果報告ほか	

(2) 学術行事への助成事業(定款第4条第4・7項該当事業)

中之島祭で開催されたシンポジウム・展示の支援に10万円を支給した。

II. その他事業(相互扶助等事業)

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

- 1 広報誌発行事業(定款第4条第5項該当事業)
年3回(5月・9月・1月)発行し、会員・各大学などに配布した。
- 2 会員交流助成事業(定款第4条第8項該当事業)
医学部卒業生の支援として10万円を支給した。

管理部門

I. 法人管理

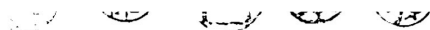
- 1 総会の開催 定時社員総会 2014年5月31日(土)
- 2 理事会の開催
定例理事会 2014年4月18日(金)、2015年3月13日(金)
臨時理事会 2014年5月31日(土) 総会前
みなし理事会 2014年5月21日、6月20日、7月11日、10月3日、11月21日、12月19日、2015年1月24日、2月27日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開(ホームページにて)

附属明細書

事業における重要な事項は平成26年度事業報告に掲載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特にないので附属明細書は作成しない。



公益社団法人 医学振興協会 2013年度事業報告
自2013年（平成25年）4月1日 至2014年（平成26年）3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業（定款第4条第2項該当事業）

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

- ①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生15名に各々20万円を支給した
- ②岸本基金奨学助成金 学業に精励して成績優秀であり、将来に向けての高い志を有する学部学生に、1年次4名に各々月額5万円を、2年次～6年次の10名には各々月額10万円を支給した

(2) 地域医療に関する研究助成金（定款第4条第1項該当事業）

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者（個人またはグループ）に対する研究助成金として、4名の研究者に1件50万円を支給した。

木下 学	全脳放射線治療による遅発性脳障害発生の神経画像的リスクバイオマーカーの検索
杉村啓二郎	新規バイオマーカーであるmicroRNAの発現定量を用いた食道癌術前化学療法感受性予測法の開発 -個別化治療をめざして-
高森 弘之	中河内地区におけるがん化学療法に対する医薬薬連携の試み
藤森 孝人	骨粗鬆症性椎体圧迫骨折に対する経皮的バルーン椎体形成術の有効性の検証

(3) 国際学術交流助成金（定款第4条第3項該当事業）

外国で行われる国際学会等において成果発表をする若手研究者の渡航費用支援として、12名の研究者に対し、地域により8万円～20万円の助成金を総計200万円支給した。

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) シンポジウム「地域医療の課題とその対策」の開催（定款第4条第4項該当事業）

「国のがん対策と地域医療連携」をテーマに、地域医療に携わる現場の医師や医療施設関係者が意見交換・討論を行い、知識や交流を深めた。

2013年10月18日（金）開催 テーマ「国のがん対策と地域医療連携」

講演者	門田 守人（がん研有明病院 院長）
コメンテーター	左近 賢人（大阪府立成人病センター 院長）
	野口眞三郎（大阪大学教授 乳腺・内分泌外科学）
	北川 透（医療法人 協和会 理事長）
コーディネーター	荻原 俊男（森ノ宮医療大学 学長・大阪大学 名誉教授）

(2) 銀杏メディカルネットの運営（定款第4条第6項該当事業）

インターネット上の研修等情報サイト「銀杏メディカルネット」を通して、地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、医学生・研修医等に病院・研究施設の情報を提供した。

3 医学医療に関する情報の普及・啓発啓蒙事業

(1) 学術誌の発行事業（定款第4条第5項該当事業）

会員・地域病院などに配布（2013年12月発行）

總會特別講演	ナノスペースでの生命のしくみ	大阪大学大学院生命機能研究科 プロトニックナノマシン研究室 教授 藤波啓一
シンポジウム講演	国のがん対策と地域医療連携	執筆者は上記2(1)を参照



公益社団法人 医学振興協会 2013年度事業報告
 自2013年(平成25年)4月1日 至2014年(平成26年)3月31日

「iPS生涯医療教育の講座最前線」	①臨床応用に向けたiPS細胞技術の開発	京都大学iPS細胞研究所 初期化機構研究部門講師 中川 誠人
	②iPS細胞を用いた血小板作製の意義	京都大学iPS細胞研究所 臨床応用研究部門教授 江藤 浩之
	③細胞から臓器へ；iPS細胞から臓器を創る	東京大学医科学研究所 幹細胞治療研究センター JST・ERATO 中内幹細胞制御プロジェクト教授 中内 啓光
	④骨格筋筋芽細胞シートによる心筋再生治療	大阪大学医学部 心臓血管外科教授 澤 芳樹
	⑤角膜再生～体性幹細胞からiPS細胞へ～	大阪大学医学部 眼科学助教 林竜平、同教授 西田幸二
	⑥iPS細胞を用いた脊髄再生医療の展望	慶應義塾大学医学部 整形外科准教授 中村 雅也
	⑦iPS細胞を用いたパーキンソン病治療	京都大学iPS細胞研究所 臨床応用研究部門教授 高橋 淳
	⑧iPS細胞技術を用いた神経再生・疾患研究	慶應義塾大学医学部 生理学教室教授 岡野 栄之
	⑨iPS細胞を用いた網膜細胞治療	理化学研究所 発生再生科学総合研究センター 網膜再生医療研究開発プロジェクトリーダー 高橋 政代
	⑩細胞培養装置の動向	大阪大学工学研究科 生命先端工学教授 紀ノ岡正博
「死因究明制度集について」	①はじめに	大阪大学医学部 法医学教授 松本 博志
	②わが国の死因究明制度について	東京大学大学院医学系研究科 法医学・医事法学講座 教授 吉田 謙一
	③大阪府監察医事務所における監察医業務	大阪府監察医事務所 監察医 中間健太郎
	④診療関連者の第三者機関について	大阪大学医学部 呼吸器外科学教授・日本医療安全調査機構 大阪地域代表 奥村明之進
	⑤死因究明の法制度について	香川大学名誉教授・滋慶医療科学大学院大学教授、弁護士 田中 圭二
	⑥死亡画像診断Autopsy imaging(Ai)の有用性とその限界～大阪大学法医学教室での経験から～	慶應義塾大学医学部 法医学教室准教授 飯野 守男
	⑦院内死亡における予期しない死亡または死因不明症例への対応と考察	大阪大学医学部附属病院 中央クリティカルマネジメント部 特任助教 服部 高子
	⑧院内死亡における解剖の有用性	大阪大学医学部 病態病理学・病理部長 教授 森井 英一
	⑨警察医と死因究明制度	医療法人河野外科医院 理事長・大阪府監察医・大阪府警察医 河野 朗久
	⑩大規模災害における死因究明について	千葉科学大学危機管理学部 医療危機管理学科 学科長・教授 黒木 尚長
⑪これからの死因究明人材育成について	大阪大学医学部 法医学教授 松本 博志	

地域医療に関する研究助成成果報告ほか

(2) 学術行事への助成事業(定款第4条第4・7項該当事業)

中之島祭で開催されたシンポジウム・展示の支援に10万円を支給した。

II. その他事業(相互扶助等事業)

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

1 広報誌発行事業(定款第4条第5項該当事業)

年3回(5月・9月・1月)発行し、会員・各大学などに配布した。

2 会員交流助成事業(定款第4条第8項該当事業)

第65回西日本医科学生総合体育大会および医学部卒業生の支援として10万円ずつ支給した。

管理部門

I. 法人管理

1 総会の開催 定時社員総会 2013年5月25日(土)

2 理事会の開催

定例理事会 2013年4月19日(金)、2014年3月14日(金)

臨時理事会 2013年5月25日(土) 総会前後2回

みなし理事会 2013年5月15日、6月21日、7月19日、9月20日、11月15日、12月20日、2014年2月1日、2月28日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開(ホームページにて)



公益社団法人 医学振興银杏会 2012年度事業報告
自2012年(平成24年)4月1日 至2013年(平成25年)3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業(定款第4条第2項該当事業)

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

- ①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生17名に1人につき20万円を支給した
- ②岸本基金奨学助成金 学業に精励して成績優秀であり、将来に向けての高い志を有する学部学生に、1年次4名には1人につき月額5万円を、2年次～6年次の10名には1人につき月額10万円を支給した

(2) 地域医療に関する研究助成金(定款第4条第1項該当事業)

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者(個人またはグループ)に対する研究助成金として、4名の研究者に1件50万円を支給した。

金本 隆司	超音波診断装置を用いた膝蓋骨の動きの定量的評価法の開発と利用-膝前十字靭帯再建術及び人工膝関節全置換術の術後リハビリテーションにおける活用-
佐藤 崇	顔面神経麻痺に対する新規治療薬となりうる神経再生因子の解明
西田健太郎	より安全な人工視覚システムの開発
吉田 栄宏	初代培養スフェロイドを用いた筋層非浸潤性膀胱癌の再発・進展リスクの予測

(3) 国際学術交流助成金(定款第4条第3項該当事業)

外国で行われる国際学会等において成果発表をする若手研究者の渡航費用支援として、13名の研究者に対し、地域により10万円～20万円の助成金を総計200万円支給した。

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) シンポジウム「地域医療の課題とその対策」の開催(定款第4条第4項該当事業)

「超高齢社会の医療と介護」をテーマに、パネリスト共に、地域医療に携わる現場の医師や医療施設関係者が意見交換・討論を行い、知識や交流を深めた。

2012年11月8日(木)開催 テーマ「超高齢社会の医療と介護」

パネリスト	樂木 宏実(大阪大学 教授 老年・腎臓内科学)
	田村 学(医療法人学線会 おおさか往診クリニック理事長)
	北川 透((医)協和会 協立病院 院長、大阪大学 准教授(医療経済産業政策学))
	伊藤 裕康(大阪府医療監)
コーディネーター	萩原 俊男(森ノ宮医療大学 学長・阪大名誉教授)

(2) 银杏メディカルネットの運営(定款第4条第6項該当事業)

インターネット上の研修等情報サイト「银杏メディカルネット」を通して、地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、医学生・研修医等に病院・研究施設の情報を提供した。

3 医学医療に関する情報の普及・啓発啓蒙事業

(1) 学術誌の発行事業(定款第4条第5項該当事業)

会員・地域病院などに配布(平成24年12月発行)

総会特別講演	免疫学と共に40年	大阪大学総長 平野俊夫
シンポジウム講演	超高齢社会の医療と介護	執筆者は上記2(1)を参照

公益社団法人 医学振興協会 2012年度事業報告
自2012年(平成24年)4月1日 至2013年(平成25年)3月31日

<p>「生涯教育講座」 「脳機能(ニューロイメージング)」</p>	<p>①ニューロイメージング技術：Positron Emission Tomography(PET) ②運動制御のニューロイメージング ③味覚、咀嚼とニューロイメージング ④ニューロイメージングによる性欲中枢と性的興味 ⑤聴覚とニューロイメージング ⑥脳神経外科手術とニューロイメージング ⑦特発性正常圧水頭症のニューロイメージング ⑧医療品開発とニューロイメージング ⑨ニューロイメージング(MRI)の最近の進歩</p>	<p>大阪大学医学部 核医学 教授 畑澤 順 大阪大学医学部 健康スポーツ科学講座運動制御学 教授 木下 博 大阪大学歯学部 歯学放射線学 准教授 村上秀明 大阪大学医学部 泌尿器科学 准教授 辻村 晃 八尾市立病院 耳鼻咽喉科 医長 大崎康宏 大阪大学医学部 脳神経外科学 准教授 橋本直哉 大阪大学医学部 精神医学 講師 敷井裕光 大阪大学医学部 核医学 准教授 下瀬川恵久 大阪大学医学部 放射線医学 講師 渡邊嘉之</p>
<p>「改正臓器移植の特集現状」 「改正臓器移植後の地域医療に関する研究助成成果報告ほか」</p>	<p>①臓器移植改正法並びに改正法施行後の臓器移植の現状と課題 ②臓器提供の現状とコーディネーターの役割 ③臓器提供施設の現状と課題 ④臓器提供におけるメディカルコンサルタントの役割 ⑤我が国における心臓移植・心肺移植の現状と課題 ⑥肺移植の現状と課題 ⑦肝臓移植の現状と課題 ⑧脾臓移植の現状と課題 ⑨小腸移植の現状と課題 ⑩腎臓移植の現状と課題 ⑪日本移植学会の役割 ⑫大阪大学における臓器移植医療の今後の展開</p>	<p>大阪大学医学部寄附講座 重症臓器不全治療学 教授 福高教偉 (社)日本臓器移植ネットワーク 医療本部長・チーフ移植コーディネーター 芦刈淳太郎 大阪大学医学部附属病院 救急救命センター 講師 小倉裕司 大阪大学医学部 心臓血管外科学 助教 福高五月 大阪大学医学部 心臓血管外科学 准教授 戸田宏一 大阪大学医学部附属病院 手術部 部長・呼吸器外科 准教授 南 正人 大阪大学医学部 消化器外科学・移植医療部 准教授 永野浩昭 大阪大学医学部寄附講座 生体機能補充医学 教授 伊藤壽記 大阪大学医学部 小児成育外科学 助教 上野豪久 大阪大学医学部 泌尿器科学 教授 野々村祝夫 日本移植学会 理事長 大阪大学医学部寄附講座 先端移植基盤医療学 教授 高原史郎 大阪大学医学部附属病院 移植医療部 部長 大阪大学医学部 心臓血管外科学 教授 澤 芳樹</p>

(2) 学術行事への助成事業(定款第4条第4・7項該当事業)
中之島祭で開催されたシンポジウム・展示の支援に10万円を支給した。

II. その他事業(相互扶助等事業)

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

- 1 広報誌発行事業(定款第4条第5項該当事業)
年3回(5月・8月・1月)発行し、会員・各大学などに配布した。
- 2 会員交流助成事業(定款第4条第8項該当事業)
第64回西日本医科学生総合体育大会および医学部卒業生の支援として10万円ずつ支給した。
- 3 会員名簿発刊事業(定款第4条第5項該当事業)
3年に一度の発行年あたり、予定通り11月に発行した。名簿として個人的に活用する他に、会員間での患者紹介や、特定症例および知識に関する有識者照会といった医学関係者データベースとしても活用出来るよう、専門分野の情報なども掲載した。

管理部門

- I. 法人管理
 - 1 総会の開催 定時社員総会 2012年5月26日(土)
 - 2 理事会の開催
 - 定例理事会 2012年4月20日(金)、2013年3月22日(金)
 - 臨時理事会 2012年5月26日(土) 総会前1回
 - みなし理事会 平成24年5月15日、6月15日、7月25日、9月28日、11月16日、12月21日、平成25年1月26日、2月15日
- II. 会員データの管理と整備
- III. 情報公開(ホームページにて)



公益社団法人 医学振興銀杏会 2011年度事業報告
自2011年(平成23年)4月1日 至2012年(平成24年)3月31日

事業部門

I. 公益目的事業

1 学生の修学の奨励および育英、医学に関する調査・研究・学術交流助成事業

(1) 奨学金事業(定款第4条第2項該当事業)

前途ある学生の修学機会を広げる為、大阪大学医学生等の支援を行った。

- ①学友会奨学金 就学にあたり経済的支援を必要とする学部学生・大学院生19名に1人につき20万円を支給した
②岸本基金奨学助成金 学業に精励して成績優秀であり、将来に向けての高い志を有する学部学生に、1年次2名には1人につき月額5万円を、2年次～6年次の11名には1人につき月額10万円を支給した

(2) 地域医療に関する研究助成金(定款第4条第1項該当事業)

地域医療に貢献している病院・施設において研究に携わる若手医師あるいは研究者(個人またはグループ)に対する研究助成金として、4名の研究者に1件50万円を支給した。

浅岡 忠史	急性胆嚢炎における地域連携クリニカルパスの構築と低侵襲手術の実践
金 浩敏	肛門括約筋温存手術後の肛門機能評価-肛門内圧検査の意義-
高田 友英	性犯罪被害者に処方した緊急避妊薬、抗生物質の追跡調査
東口 将佳	抗がん医療と緩和医療の融合を目指した新たな地域がん病診連携を目指して

(3) 国際学術交流助成金(定款第4条第3項該当事業)

外国で行われる国際学会等において成果発表をする若手研究者の渡航費用支援として、15名の研究者に対し、地域により5万円～10万円の助成金を総計121万円支給した。

2 地域医療の向上・ネットワーク機能強化・人材交流事業

(1) シンポジウム「地域医療の課題とその対策」の開催(定款第4条第4項該当事業)

「大阪における救急医療の課題とその対策」をテーマに、パネリスト共に、地域医療に携わる現場の医師や医療施設関係者が意見交換・討論を行い、知識や交流を深めた。

2011年11月17日(木)開催 テーマ「大阪における救急医療の課題とその対策」

パネリスト	吉岡 敏治(大阪府立急性期・総合医療センター 院長)
	金森 佳津(大阪府健康医療部保健医療室医療対策課 課長)
	嶋津 岳士(大阪大学 教授)
コーディネーター	萩原 俊男(森ノ宮医療大学 学長・阪大名誉教授)

(2) 銀杏メディカルネットの運営(定款第4条第6項該当事業)

インターネット上の研修等情報サイト「銀杏メディカルネット」を通して、地域医療のネットワーク機能強化および人材交流の活性化のため、医学生・研修医等に病院・研究施設の情報を提供した。



公益社団法人 医学振興協会 2011年度事業報告
自2011年(平成23年)4月1日 至2012年(平成24年)3月31日

3 医学医療に関する情報の普及・啓発啓蒙事業

(1) 学術誌の発行事業(定款第4条第5項該当事業)

会員・地域病院などに配布(平成23年12月発行)

総会特別講演	冠動脈バイパスの生理・生物学	国立循環器病研究センター名誉総長・堺市医療監 北村惣一郎
シンポジウム講演	大阪における救急医療の課題とその対策	執筆者は上記2(1)を参照
「分子標的治療薬」 生涯教育講座	①生涯教育講座の意図と前書き	血液・腫瘍内科学 教授 金倉 謙
	②造血器腫瘍の分子標的治療	化学療法部/血液・腫瘍内科学 准教授 水木清佐央
	③関節リウマチ診療におけるパラダイムシフト	呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授 田中敏郎
	④肺癌	呼吸器・免疫アレルギー内科学 講師 立花 功
	⑤炎症性腸疾患の分子標的治療	消化器内科学 准教授 辻井正彦
	⑥分子標的医薬 (IL-6阻害剤療法、Toilizumab、アクテムラ) のキヤンサーカス (Castlemans Disease) への適応	工学研究科 応用化学専攻 免疫医科学 特任教授 吉崎和幸
	⑦加齢黄斑変性に対する分子標的治療薬	眼科学教室 准教授 瓶井資弘
	⑧強直性脊椎炎 (Ankylosing spondylitis) に対して抗サイトカイン療法	運動器バイオマテリアル学 准教授 富田哲也
	⑨乾癬の病態と分子標的治療薬	高知大学医学部 皮膚科学講座 教授 佐野栄紀
	⑩腎細胞癌	泌尿器科学 教授 野々村祝夫
「この教訓を生かすために」 「東日本大震災」 特集	①総括	中央リハビリテーション部 病院教授 中島和江
	②未曾有の広域大災害から学んだ危機管理	福島県立医科大学医学部 臓器再生外科学講座主任教授 後藤潤一
	③東日本大震災と急性期災害医療活動：阪神淡路大震災を顧み	高度救命救急センター 教授 嶋津岳士
	④東日本大震災で問われた公衆衛生活動とその体制の問題	関西大学 社会安全学部社会安全学専攻教授 高島毛隆雄
	⑤大規模災害時の法医学の役割～東日本大震災における検案・身元確認活動を振り返る～	法医学教室 講師 飯野守男
	⑥福島第一原子力発電所の事故を考える	工学研究科環境・エネルギー工学専攻量子エネルギー工学講座教授 山口彰
	⑦放射線の人体への影響と評価～子どもが危ない～	放射線基礎医学 准教授 本行忠志
	⑧東日本大震災に関わる阪大病院の医療支援活動について	病院長 福澤正洋
地域医療に関する研究助成成果報告		

(2) 学術行事への助成事業(定款第4条第4・7項該当事業)

中之島祭で開催されたシンポジウム・展示の支援に5万円を支給した。

II. その他事業(相互扶助等事業)

会員の交流を活性化することにより、会員間の医学医療の知識や意見の交換を通して、地域医療や医学の振興発展に寄与するため以下の事業を行った。

1 広報誌発行事業(定款第4条第5項該当事業)

年3回(5月・9月・1月)発行し、会員・各大学などに配布した。

2 会員交流助成事業(定款第4条第8項該当事業)

第63回西日本医科学学生総合体育大会および医学部卒業生の支援として10万円ずつ支給した。

管理部門

1. 法人管理

1 総会の開催 定時社員総会 2011年5月28日(土)

2 理事会の開催

定例理事会 2011年4月28日(木)、2012年3月16日(金)

臨時理事会 2011年5月28日(土) 総会前後2回

みなし理事会 平成23年4月8日、6月24日、7月22日、9月9日、10月21日、12月16日、平成24年1月28日、2月17日

II. 会員データの管理と整備

III. 情報公開(ホームページにて)

